

令和6年度 指導者講習会

リスクマネジメントについて

山形市少年自然の家

★これまでであった事例から

【ウォークラリー到着後に大怪我】

ゴールしていない班が多い中、到着した子どもたちは、掲揚塔前あたりで鬼ごっこなどをして遊んでいた。指導者が1名でゴールのチェックをしているうちに、子どもが転んで骨折した。

指導者として

リスクのない活動はない！

リスクマネジメントは必須

- リスクの存在や大きさを事前に把握
(危険予見義務)
- 適切な方策を講じることでリスクの発生を抑え、ダメージを極力小さくする
(危険回避義務)

指導者として

どのような子どもに育てたいのか

主体的に行動する子ども

自分で判断・行動することができる子ども

自分の身を自分で守る子ども

など

子ども主体の活動に

目の前の子どもが、

「自分が、また、自分たちが活動をつくりあげていこう」

「自分が、また、自分たちが活動をつくりあげている」

という意識をもっているか

自己責任のある活動になっているか

そのために、

ゆとりのある研修プログラムに

そして、子どもの

「目的意識」「見通し」を確かにさせる

ゆとりある研修プログラム

【例1】

▲白鷹山WRの後の活動をどう考えますか？

活動の遅れ→教師の焦り→教師主導に

※活動の責任が教師に。子どもは指示待ちの状態に。

A校の場合

16:00 オリエン

16:30 ベッドメイキング

17:30 食堂で夕食

18:15 キャンプファイヤー準備

18:45 キャンプファイヤー

20:15 入浴

21:00 振り返り

★1泊2日の短い
時間で、多様な
活動を仕組むこ
とにより奪われる
ゆとり

ゆとりある研修プログラム

【例2】～子どもたちの思考・判断・かかわりを重視～

1日目

9:30 入所式
オリエン
10:00 テント設営
12:00 おにぎり配付
13:15 原始の火起し
15:40 炊飯活動
19:30 ナイトハイク
21:00 班長会・班会
21:40 就寝

2日目

6:00 起床・洗面
6:30 朝の集い
7:00 ご飯炊飯
10:00 白鷹山WR
おにぎり配付
15:40 炊飯活動
19:30 キャンプF
21:00 班長会・班会
21:40 就寝

3日目

6:00 起床・洗面
6:30 朝の集い
7:00 ご飯炊飯
テント撤収
荷物整理
おにぎり配付
選択活動
14:00 退所式

★全体で集合する機会をできるだけ減らし、子ども自らの判断で動けるように仕組む。

ゆとりある研修プログラム

【例3】

▲それぞれの活動時間をどう捉えますか？

PAの場合

※最低2時間は必要

- ①アイスブレイク……………30分程度
- ②エレメント1つにつき……………20～30分

夕食の炊飯の場合

※最低3時間は必要

- ①初期指導・食材運搬・コンテナ…20分程度
- ②食材切り・米とぎ・薪準備……………30分程度
- ③点火して調理……………1時間以上
- ④食事と後片付け……………1時間以上

ゆとりある研修プログラム

いかだアドベンチャーの場合

※最低でも1時間30分は必要

- ①初期指導・ハーバーへ移動・・・30分
- ②いかだ乗り・・・・・・・・・・・・・・・・30分以上
- ③本館に移動・片付け・・・・・・・・30分

原始の火起こしの場合 **※最低2時間は必要**

- ①初期指導・材料等配付・・・・・・20分
- ②作業と火起こし・・・・・・・・・・1時間30分以上

テント設営の場合 **※最低1時間30分は必要**

- ①初期指導・テント運搬・・・・・・・・30分
- ②テント設営・・・・・・・・・・・・・・1時間以上
- ③シュラフ運搬とテント内整備・・・10分

1. 鳥獣・昆虫等の害

①マダニ

- ・ 昨年度の被害は1件。

対策

- ・ 肌を出さない。長袖や長ズボンの着用、首にタオルを巻くなど、マダニが体に入らない工夫を！



もし、刺されたら……

- ・ 無理に取らずに病院へ。取ると病原菌が入ったり、頭部が残ったりする可能性がある。

1. 鳥獣・昆虫等の害

②ブヨ(ブユ、ブド)

- 毎年被害は多い。
- 肌の弱い人は赤く腫れ上がる。



対策

- マダニ対策同様、皮膚を出さないように！
- 虫除けスプレーをする。(効かない場合も.....)

1. 鳥獣・昆虫等の害

③ハチ ・昨年度の被害2件



写真のキイロスズメバチのような樹上や軒先に巣をつくるものは分かりやすいが、オオスズメバチやクロスズメバチなど地面に巣をつくるものは発見しにくい。

対策・・・ 巣に近づかない！ イタズラしない！
外にあるシートの陰などは要注意！

もし、刺されたら……

応急処置はするが、その後アナフィラキシーの症状が出た場合、本所では対応できない。病院へ。

1. 鳥獣・昆虫等の害

④熊 ※イノシシにも注意！

毎年、周辺で目撃情報がある。
本所では ロケット花火で対応。



対策

★グループに最低1個熊鈴を着用する。(熊鈴75個)

★直前点検を！(活動エリアで、車のクラクション、
ラジオの音量を上げて歩く等)

⑤蛇

- ・ 被害報告なし。見つけても、さわらないこと。
- ・ マムシやヤマカガシには毒がある。

2. 食中毒対策

- 自然の家でも万全を期するように努めているが、利用団体側でも十分に注意を！
- 水道水以外の水は飲まないこと。外の水
水道水は、少し水を出してから飲むようにする。
- 食材の肉は切っているので、直接手でさわらないようにすること。
- 食材やおにぎりは、提供後2時間以内に調理したり食べたりする。

※受け取りが遅れる場合は連絡を

3. けがと熱中症について

①過去の大けが

- プロジェクトアドベンチャーで地面に頭から落下し、ドクターヘリで搬送1件。

→指導者の支える位置取りの大切さ

- 以前、プロジェクトアドベンチャー（PA）時の骨折が2件。うち一件は、ワイヤー上を走るといった適切な使い方をしていなかったため。

→事前研修必須（事前打合せ時＋当日）

→指導者全員が利用の仕方を熟知しておく。

（PAのDVDもある。市内はHPで映像を見れる。）

3. けがと熱中症について

②熱中症対策

- 本館で熱中症指数・気温を計測・掲示。
- 熱中症事故が危惧される状況時は、その状況を利用団体に伝え、活動の中止や内容の見直しを勧告。
- 利用団体は、安全を第一に判断。
- 服装、水分・塩分補給、こまめな健康観察など、十分な配慮を。 ※ジャグの貸出可能

4. 枝折れや倒木、危険な植物について

①枝折れ

- 枝が折れ、その枝が樹上に絡まっているときがある。強風で落ちるときもあるので、下検分の際は、樹上にも目を配る。
- 本所でも枝を取り除くように努めてはいるが、高いところにあるものは無理である。

②危険な植物

- ウルシなどは、肌の弱い子どもは側を通っただけでもかぶれることも……。さわらない！



5. 天候について

① 注意報と警報について

- ・ 雷注意報や大雨警報などが発令されたら、すぐに各団体に伝えるようにしている。
- ・ 予定通り実施するか・・・ルートを変更するなどして実施するか・・・中止にするか・・・は団体の判断によるが、スタッフと要相談！

② 情報提供

本館事務室の入り口隣に、「お天気情報」を掲示している。現時点での詳細情報は、スタッフに訊いていただきたい。

6. その他

①じゃり道、本館の廊下、部屋の中・・・

何も指導しなければ、子どもたちは常に走っている。事故や怪我・施設等の破損はそうした時に起こる。

②かまどの網にはさわらない

鍋に火が当たりやすくするために、網を逆さまにしている。鍋を持ち上げたり、かまど掃除の時に、指などをはさまぬよう近くで指導する。



7. その他

③ マッチの管理を

炊飯活動で配付するマッチ箱には、班名を明記し、活動後に間違いなく回収する。

④ 子どもの安全確保のため

指導者が事前に様々な配慮をすることも大事だが、**子どもに対する意識付け**も欠かせない。活動の説明だけに終わらず、万が一に備えての対応方法も伝えるようにする。

また、いかだアドベンチャーの際、指導救助ボートに引率者が乗るのは必須です。

★万が一の場合を考えて活動を仕組む

クライシスマネジメントの重要性＝危機対応

【活動中に、巨大地震が発生したとき】

→避難の仕方や避難場所などを教えておく。

①しゃがんで、頭を荷物等で守り、揺れが治まるのを待つ。崖付近であれば、できる限り崖から離れる。

②走らずに落ち着いて指導者のいるポイントに向かう。

★万が一の場合を考えて活動を仕組む

【活動中に、雷雨やゲリラ豪雨が発生したとき】

→避難の仕方や避難場所などを教えておく。

①建物や背の低い林の中に入り、雷が過ぎ去るのを待つ。

高いものに雷は落ちるので、平原や駐車場、道路、沼、川から離れる。

②豪雨の場合は、たとえ小さな川でも、鉄砲水の恐れがあるので離れる。

★万が一の場合を考えて活動を仕組む

【活動中に、山火事に遭遇したとき】

- ①火元に近づかないで、来た道に戻る。
- ②近くにいる指導者や大人に知らせる。

【道に迷ったとき】

- ①指導者がいた場所までもどる。
- ②森の奥に入らずに、車道や駐車場に出て、地図で位置を確かめる。

※検索方法は？ スタッフに相談

★事例から学ぶ

【白鷹山頂から一つの班が白鷹町へ】

一度に、多くの班が「山頂」に到着。指導者一人で、到着時刻や人数のチェックをしている間に、昼食を食べ終わった一つの班が、間違った道を下りていってしまった。

《解決策》

山頂にいる指導者の仕事は多い。人数チェック、健康観察、下山道の確認、安全確認、気になる子どもへの対応・・・学年の人数が多ければ、指導しきれない状況に。

先生がいるチェックポイントでのルール（到着した時に伝えること。出発する時に伝えること）を子どもたちに意識させておくことが大切。

★事例から学ぶ

【ウォークラリーで迷子続出】

夕方頃に、数十人の迷子の連絡が入った。結果的には、その数十人がまとまっていたので不幸中の幸い。

《解決策》

スタート前の意識付けがポイント。ルール説明のみでスタートさせてしまったことで、子どもたちの課題意識が高まっていなかったのが原因。大事なのは、「道に迷わずに無事にゴールにたどり着くには、班でどんな取り組みが必要か」「それでも道に迷ったら、どうするか」「山頂はどちらの方角か」などをしっかり考えさせ、見通しをもたせること。ある程度の「覚悟」をもってスタートさせたい。

★事例から学ぶ

【危うく山火事に】

本館営火場でのキャンプファイヤーを終えた学校が、残り火の番をせずに本館にもどり、山火事になりかけた。

《解決策》

キャンプファイヤーの後の「残り火の始末」は、利用団体の責任で行うことになっている。風がない夜であっても、その場から離れることはできない。

女の先生を一人で残すわけにはいかない。しかし、自分は子どもたちへの指導がある。だから、誰も火の番ができない……。だからそのままにしてよいというわけにはいかない。見通しをもって、チームで対応を。

★事例から学ぶ

【炊飯活動で大怪我】

- ① 地面に落ちていた針金（薪を束ねている針金）がシューズを貫通し、足に刺さった。
- ② かまどに立ててあった網が倒れ、指をはさんだ。

《解決策》

所員や村長で見回りはこまめにしているが、実際に使用する団体で、丁寧に「直前点検」をしてほしい。また、子どもたちの服装もチェックしてほしい。火の担当の子どもは軍手をしているか。燃え移りやすいフリース素材等を着ていないか。鍋を移動する際に、軍手を何枚も重ねているか。鍋の持ち運びの際に、声がけしているか。

AEDの設置場所と連絡方法

【設置場所】・・・4箇所に設置

「本館」と「サービスセンター」

「荒沼・板橋沼の両キャンプ場の管理棟」

【連絡方法】

- 施設から離れている場合は、本館に連絡する。
- 施設内にいる場合は、近くにいるスタッフもしくは本館に連絡する。

R6の変更点等について①

バス代金の助成について

- 3月の期日決定通知書により通達済み
(令和5年10月よりバス代が値上げ)
- **冬期の予算**は、後日通知
(バス・タクシーの単価は同じ予定)
- コロナ禍前の定員で配当 (**補助席あり**)
- **配当金額内**での執行を (バス予約を早く)
- 学級閉鎖等によりやむを得ず中止や延期になる場合には、速やかに相談を

R6の変更点等について②

食事について

- ・ メニューの一部変更
「自然と友と」「食事申込書」
「食材の分け方」**最新版のダウンロード**を
- ・ 食事数変更の期限を変更
本館食堂・炊飯材料… **3日前の午前中まで**
弁当など携帯食… **2日前の午前中まで**
※出席停止による期限を過ぎた食事数変更には今後対応できません。

R6の変更点等について③

シーツクリーニングについて

- ・ 料金が **160円** に値上げ
- ・ 返却の仕方も変更

2階衣料庫の回収袋の中へ、
枕カバー・シーツ一緒に
畳まずに入れる。

R6の変更点等について④

夏期研修活動・クラフトの新メニュー追加

- ・ ショートオリエンテーリング
- ・ 自然の家探検スタンプラリー
- ・ オリジナル鉛筆
- ・ 消しゴムはんこ
- ・ 簡易版竹とんぼ

詳しくは「夏期研修資料」参照

◆ あいさつ

◆ 安全

◆ 整理整頓

◆ マナー